

山村友五郎の世界 ～ Dance & talk “上方舞” tonight !! ～

—— 2015年12月22日 / クラブ関西 ——



山村友五郎さん

関西・大阪を拠点に活躍する優れたアーティストを紹介する「アート・アセンブリー（関西・大阪21世紀協会主催、クラブ関西協力）」が昨年第7回を迎え、日本舞踊・上方舞 山村流六世宗家の山村友五郎さんによる、優美で物語性に富む上方舞が披露された。今回はOSK日本歌劇団のトップスター高世麻央さんも加わり、上方舞とゆかりの深い上方落語の桂吉坊さんのナビゲートで、バラエティーに富む内容となった。

山村友五郎さんが披露したのは、上方唄「愚痴」と地唄「八島」。「愚痴」は、恋する人を待ち焦がれて揺れる女心を唄ったもので、友五郎さんの舞には、しっとりとした女の色気が香り立つのだった。「八島」は扇を2枚使い壇ノ浦の源平合戦での修羅場を表現する雄壮な舞で、約80名の参加者は趣きの異なる2つの舞に、上方舞の奥深さを知ることとなった。

山村友五郎さんは1964年大阪市生まれ。江戸時代から伝わる座敷舞と歌舞伎舞踊の二つの流れをもつ山村流上方舞の伝統を継承してきた。2014年7月に流祖の名跡「山村友五郎」を120年ぶりに復活させ、三代目を襲名。同年9月、



桂 吉坊さん

長男の四代目若襲名と合わせ、国立文楽劇場（大阪市）で日本舞踊界を代表する各流派の家元を招いて襲名披露公演「舞扇会」を開催し、その成果によって2014年度大阪文化祭賞・最優秀賞を受賞した。

一方、OSK日本歌劇団も2010年の公演作品「バンディット～霧隠才蔵外伝～」で大阪文化祭賞グランプリを受賞し、同作に主演した高世麻央さんの優れた演技が高く評価された。高世さんは、「MY BLUE ROSE」など5曲を、同団の恋羽みうさんと千咲えみさんとともに披露した。

OSK日本歌劇団は今年で創立94年。浪速の春の風物詩として知られるレビュー「春のおどり」は、初代山村友五郎の座敷舞や舞踊の系譜に連なるといわれている。高世麻央さんのトップスターお披露目公演（2015年）の「レビュー 春のおどり」の第1部「道頓堀開削400年・浪花今昔門出展」では、山村友五郎さんが構成・演出・振付を行った。トークコーナー



高世麻央さん(右)と恋羽みうさん(左)

では、38名の団員全員に振り付けた時の思い出や、高世さんの舞台に上がるまでの努力など、数々の興味深い体験談も披露された。

終演後は、出演者を囲んで交流会を開催。出演者と観客が直接ふれあえる機会とあって、さまざまな話題で盛り上がった。

山村友五郎（三代目）

芸術選奨文部科学大臣賞（2010年）、日本伝統文化振興財団賞（2014年）、大阪文化祭賞最優秀賞（2015年）、日本芸術院賞（同年）など受賞多数。一門の指導育成に加え、東京の舞踊家と「五耀会」公演を定期的に行うなど、多彩な活動で全国的に注目される。

OSK日本歌劇団

1922年に松竹楽劇部として創立。1970年に現在の劇団名となり、1971年～2003年まで近鉄グループ傘下で活動。解散後は「OSK存続の会」が活動を支援し、2009年より株式会社OSK日本歌劇団として活動。

アート・アセンブリーの開催は賛助会員様への「関西・大阪21世紀だより」や協会ホームページでご案内し、先着順にて参加受付を行っています。